



喜多の埜

御神札の奉製

御神札は、一家の守り神さまとして、または会社の守り神さまとして、この十月からお正月にかけて地元の氏神さまでお授け頂き、神棚に納めてお祀りします。

この御神札ですが、神様の御力の込められたものであるとはいえ、物質的に見れば元は紙ですので、木から紙にし、整えて奉製し、御神霊を込めなければ御神札とはなりません。

この御神札の奉製について、伊勢神宮の御神札である「神宮大麻」の奉製の過程を例として挙げますと、

一月 【大麻曆奉製始祭】

来年の神宮大麻の奉製を始める事を大神さまにご報告する神事。

四月 【大麻曆用材伐始祭】

原料となる楮などの御用材を伐り出すにあたり、山の神、木の神におことわりをする神事。

不定期 【神宮大麻修祓式】

宮川の伏流水によって濡かれた和紙を、潔斎し白衣に身を包んだ奉製員によって一体一体系作業で神宮大麻として奉製されていきます。奉製された神宮大麻は伊勢神宮の神職によってお祓いされます。

九月 【神宮大麻曆頒布始祭】

奉製した神宮大麻を全国に向けて頒布するにあたり、関係者のお祓いが執り行なわれます。運送の車もお祓いします。

十月 【(各地)神宮大麻曆頒布始奉告祭】

神宮から神宮大麻の届いた各地の神社では、神宮大麻を取り扱うにあたりお祓いします。

かように、丁寧に奉製し、幾度もお祓いをされ徹底して清浄な状態となって、十月以降、皆さまのお手元に新年の御神札として授与されます。何も知らない方からすれば、御神札はただの紙でありますが、その中に宿っている心、気持ち、神様の御力というのは目に見えないものです。清浄を第一とする日本人ならではの感覚が、この御神札はもっともよく表わしているのではないのでしょうか。

秋祭の神饌「シイラ」

今月十五日は当宮の秋祭です。現在は当宮の役員の方だけが参列される小さな神事です。が、お供えする神饌は年間の祭礼の中でも最も手の込んだものです。

何に手が込むかといいますが、調理法は当然ですが、その神饌に用いる材料の入手が難しい事にあります。この材料となるのは、かつて天神さまこと菅原道真公がお立ち寄りになられた当時、大阪湾で採れた魚や、当地周辺で収穫された野菜などから成り、現在では入手するのが難しいものばかりです。

その中の一つにシイラという魚があります。体長は二メートルにもなる大きな魚です。近世まではよく食べられた魚でしたが、脂質が少ない事から傷むのが早く、漁港など魚が水揚げされる地域のみでしか消費されませんでしたので、海が埋め立てられていった戦後は急速に姿を消し、今では釣り好きな方がたまに釣り上げるぐらいで、滅多に見る事はありません。故に神饌としてお供え出来ない年も近年では多くなりました。

しかし、神饌という形で伝え続けられて来た事で、消えていった大阪の幸の姿を、当宮の神饌は今に伝えていきます。

(神饌は非公開です)

茶屋町にジュンク堂

先月、ジュンク堂が茶屋町のチャスカ茶屋町というビルに年末に新店出される事が報道されました。一階から七階までの延床面積二千坪以上という大きな店舗となるようです。

阪急梅田駅の紀伊國屋書店も大きく改装され、来年の梅田は「本のまち」になりそうです。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、
au、モバイルPC 対応



編者 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

